

第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

| | |
|--------|----------------------------|
| 団体名 | コーディネィエラ・グリーン・ネットワーク日本事務局 |
| 活動タイトル | ルソン島北部の伝統的森林保全システムの復興と植樹事業 |
| 活動地域 | フィリピン・マウンテン州タジャン |



8月5日の教会敷地内における植樹後の集合写真



9月30日レンガ村での植樹活動



7月20日バナオ村へ苗木を運搬

【団体概要】

2001年設立。フィリピンルソン島北部のコーディネィエラ山岳地方において、水源涵養のための植樹、先住民の生計向上のためのアグロフォレストリーによるコーヒー栽培指導、フェアトレード市場での販売サポート、アートを活用した環境教育プログラムなどを実施している。

【活動の目的・目標】

タジャン町の先住民族の住民が伝統の森林管理の慣習法を反映した手法でアグロフォレストリーによって水源地12ヘクタールの植樹を行い、進行する自然林の農地への転換を減少させる。また、事業地内の小学校において子供向けの環境教育プログラムの導入を推進し地域全体の環境保全への関心を向上させる。

【今回の活動で苦勞した/工夫したこと】

今年3月に大規模な森林火災が起り、政府機関が焼失地域の植樹のために大量の苗木を調達したことから、当事業で購入を予定していた苗木が不足する事態になった。予定していた樹種が手に入らず、マホガニーとアカギに変更。残りの苗木は、来年、植樹に適したサイズに成長してから購入し植樹を継続する。

【活動の内容・成果】

開催回数：苗木運搬（6日間）、植樹活動（7カ所で9日間）

参加人数：約1,093名（植樹活動）

達成率：50%

アルヌス（ハンノキ）3,500本、ベンゲット松3,500本、ナラ3,500本、マホガニー500本、トゥアイ（アカギ）3,500本、アラビカコーヒー7,550本の総22,050本を7つの苗木業者から調達し、タジャン町に6日に分けて運搬した。苗木はサニーサイド地区の7つの村の自治体、聖マイケル教会、民族伝統の慣習法によって森林管理を委託されている14家族に配布。主駅舎による苗木の植樹は継続中であるが、9月末時点では、5つの村の共有水源地と教会敷地での植樹がほぼ終了した。

第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

こちらに、1ページ目の以外の活動写真を添付し、右側に説明をご記入下さい。



6月29日、実施団体のコーディネエラ・グリーン・ネットワークの担当スタッフ、森林専門家のフォレスター、タジャン町環境自然資源課スタッフなどが集まって、プロジェクトの進行や詳細についてのミーティングを行った。



9月29日、カブナガン村の苗場で、翌日に植樹を行う苗木のチェックと準備を行った。



9月30日、レンガ村での共有地での植樹活動には、住民たちが多数ボランティアで参加した。



9月15日、植樹用の苗木の調査にバウコ町の環境自然資源省管理の苗場を訪れたが、苗木はまだ小さすぎて移植できるサイズには至っていなかった。